

## 序章 モンペリエ

高橋大輔（1986年生まれ）は、黒の衣装を着ていた。

肩あたりまで伸びた髪をひとつに結んでいる。袖のない衣装から、鍛えられた太い腕が伸びる。勇ましさが美しい。すごく精悍だ。

村元哉中（1993年生まれ）は、赤い衣装を着ている。

差し色に白が入る。腰に黒い帯を巻いている。頬に広めに入った紅が、村元をさらに美しく見せている。

彼らが立っているのは、世界選手権のリンクである。2022年3月21日から27日まで、フランスのモンペリエで開催された。

アイスダンス日本代表、村元・高橋組（関西大学KFS C）は、これからリズムダンスを

踊ろうとしている。

使用する曲は、「ソーラン節&琴」だ。マイア・バルーが歌う、波の音から始まる、あの「どっこいしょ、どっこいしょ」のソーラン節である。

それを、彼らは極めて現代的に踊る。「どっこいしょ」が、クールなダンスになっている。「ソーラン節&琴」の振付は、マリナ・ズエワ（1956年生まれ。旧ソビエト連邦出身、アイスダンス選手、現在はフィギュアスケートコーチ兼振付師）、イリヤ・トカチェンコ（1986年生まれ）、矢内康洋（1995年生まれ）が担当した。

その振付を、高橋は「かっこいい」と話す。後半はヒップホップ（2021年―2022年シーズンのアイスダンスの課題リズムのひとつ）になっていて、「かっこいい」高橋が随所に観られる。

「見所満載」で「ユニーク」だと話す村元も、かっこよく踊る。戦い方として、よく練られたプログラムだと言えるだろう。

フィギュアスケートでの「和」は、時として歪みを生じる。スピードを要求される競技で、「和」に徹底的に沿うのは難しい。

だが、村元・高橋組の「和」は違う。曲も衣装も日本を強く意識しているが、一方で、とても上手うまく外ましている。

外あすことで違和感がなくなり、ますます日本を感じられる演技、プログラムになった。少なくとも、私はそう考えている。

そのあたりは勝負師、マリナ・ズエワの手腕だと思う。さすがだ。

村元・高橋組のリズムダンスが始まった。

コロナ禍の大会開催で、観客数は限られているが、熱気は伝わってくる。「かなだい（村元・高橋組の愛称）」の応援バナーは振られていたし、日の丸もあちこちで揺れていた。会場には、高橋大輔を楽しみにしている観客が多かっただろう。

1986年生まれの彼は、3月16日で36歳になっている。高橋は、日本フィギュアスケート界を長く牽引けんいんしてきた。輝く、スターだ。

ここで短く経歴を紹介しておきたい。アイスダンサー高橋大輔は、男子シングルの選手だった。

戦績も素晴らしい。2010年カナダ、バンクーバーオリンピックの銅メダリストであり、2010年イタリア、トリノ世界選手権のチャンピオンである。

全日本選手権は、通算5回優勝（2005年～2007年、2009年、2011年）している。むろん、男子シングルで、だ。2014年にいったん引退をするが、2018年7月に32歳で現役復帰。2020年にアイスダンスへ転向する。

私は、すごく簡単な紹介をした。だけど、高橋がいかに興味深い存在なのかは伝えられただのではないか。

彼は今、2013年以来の世界選手権のリンクに立っている。実に9年ぶりの大舞台だ。こんなことは、高橋大輔にしかできない。ある意味、荒技だと思う。

「ソーラン節&琴」に乗って、村元・高橋組が踊っている。

率直に言って、結成2年目のカップルとは思えないダンスだ。エッジは深いし、スピードがあるし、動きにキレがある。

リズムダンスには「パターンダンス」という、各組すべてが同じステップを踏む場面がある（2022年～2023年シーズンより廃止）。規定のリズムとテンポに則<sup>のつと</sup>ったスケート

は各組の比較がしやすく、レベルの判定も行われる。

後半のツイズル（ふたりにて揃えて片足回転する技）で、高橋がバランスを崩したが、あとは大きなミスはなかった。観ている気持ちのいいダンスだったし、ふたりはよく踊っていたと思う。

ただ、得点は伸びなかった。

技術点、35・82。構成点、31・95。合計67・77。それが、彼らの「初めて」の世界選手権の得点だった。

村元・高橋組の自己ベストは、75・87（日本歴代最高得点）だから、欲を言えば、もう少し伸ばしておきたいところだったろう。

アイスダンスの日本勢最高位は、村元哉中、クリス・リード（1989年生まれ）組が持っている。2018年の11位がそうだ。

もし、モンペリエで10位以内に入れば、来シーズンのアイスダンス「出場枠2」を獲得することができる。彼らは期待されていたし、彼らの目標の何割かもそこにあっただろう。

「2」が叶うかどうか。それが、試合をより公共性の高いものになっている。



村元哉中、高橋大輔組 (2022年世界選手権)

写真: Raniero Corbelletti/ アフロ

リズムダンスの村元・高橋組の順位は15位だった。

たとえ、それが思い通りでなかったとしても、彼らのモンペリエでの戦いには意味がある。大きな一歩だ。

おそらく、私たちはいつか思い出す。あのモンペリエがあって、「今」があるのだと気づく日が来る。

村元・高橋組は、上位20組が進むフリーダンスへの進出を決めた。

フリーダンスでは、2020年―2021年シーズンと同じ「ラ・バヤデー」を踊る。「ソーラン節&琴」とは、まったく異なる世界を披露する。